

のアメリカ人が壊され、負傷し、行方不明となり、そこではじめて、「最後の戦闘」は終るのである。

日本大本営の決意は、沖縄死守にあった。日本の平中に残る空海の主力を奪ってアメリカの大艦隊を撓らし、沖縄攻略の企圖を挫折せよとした。

日本軍の主力は、したがって米艦隊の頭上を避けた。

頭上にある。そして、これを実現するためにとり上げた主力艦隊が、襲撃を繰り返す。あの日本海軍特務隊の隊員によって目標まで誘導されてくる飛行機である。カミカゼ特攻隊として有名な、それであった。

沖縄に立ちふさがる海軍の閃光は、まだ頭に一歩も印しない前から、もう侵攻艦隊の頭上を避けた。

一九四五年四月六日は、よく晴れて、東支那海には空気が立っていた。

陸上では、およそ一週間前にペルリ岬が陥落した。その時、島の上には、大砲が鳴り響き、島の守りを固めた。島の防衛の要所を占領した。島の防衛の要所を占領した。島の防衛の要所を占領した。

第五艦隊司令官官史・A・スプルアンヌ提督の旗艦、重巡「インディアナポリス」は、三月三十一日、艦隊を率いたカミカゼ特攻隊一機に、左舷後部に突入された。敵艦は「アダムス」も、特攻隊二機を受け、艦隊「マレー」また魚雷一本を食って、逃げなくなった。「スカイラーク(雷艇)」は、一連力の遅い海軍艦をいうには、まことにさわしくない軽快な艦名をもったものだが、一機に撃たれて吹きとんだ。

四月三日になると、東支那列島の海軍基地は、大敵ないし中敵した艦隊で、すでに押すな押すな状態だった。

敵艦隊

クク〜

南東にあたって十七隻の護衛空母群があり、飛行機を飛ばし、地上部隊の支援と水上部隊の上空直衛に任ずる。巡洋艦と戦艦部隊は、沖縄の切り立った断崖を近くに望んで、往きつ戻りつ、日本軍陣地を砲撃する。また海岸の入りには、上陸用船艇、輸送艇、貨物船が積集して、珊瑚礁を縫い、砲波を乗り越え、人や資材を、絶え間なく陸へ陸へと吐き出し、すでに上陸を終った戦艦部隊めざして送りつける。

その沖縄と上陸部隊とを、海岸から約五十マイル離して大きく取り巻くのは、いわゆる「第五水陸両用部隊警戒部隊」、——というより、普通、レーダー・ビケット・ラインと呼ぶ警戒艇、護衛艇、掃海艇、他の小艇艇群だ。

この小艇艇群、つまり十五に分けられた哨区に配備された艇群が、いちばん敵に近く、まさきに敵を探知する。カミカゼは、爆音が聞えるより遙か以前に、まずこのレーダー・スクリーン上の光点となって、姿をあらわす。

四月六日。
ミッド・ウォッチ（午前零時から午前四時

までの間の当直）が、敵来襲機を発見した。夜明け少し前、大空襲だ。敵の九機が、輸送艇群の付近で、対空砲火で撃ち落とされる。

夜が明けてみると、空は曇っていた。昼ごろには、一面の暗雲に閉ざされた。その密雲のいたるところからカミカゼがとびこんできて、無数の矢のように、襲いかかった。俄然、隊内電話がわめき立て、各艦の戦艦情報室はたちまち無線情報の渦となった。

「宛「ベダンティック」。発「リヴァーサイド」。敵大型機百八十機見ゆ。貴艦の方はいかが？ 来たか？」
「発「ベダンティック」。然り。空襲三回受けた。……敵機通過」

カミカゼ、突入！

この暗鬱たる日、午後一時から六時までの間に、日本機百八十二機が沖縄地区に米襲、二十二回にわたって攻撃してきた。大部分、爆弾か魚雷を投下したが、二十機以上は、飛行機もとも米艦船に突入した。被害を受けたのは、遠巻きにしているレーダー・ビケット・ラインの掃海艇、駆逐艦、護衛艦、上陸用舟艇が多かった。

やられた艦船のうちに、掃海艇「ロッドマン」があった。午後三時半、七点鐘の鳴るころ、カミカゼに突入された。

そのときは海はなめらかで、八ノットで進む「ロッドマン」の白いウェーキが、時折、海面を掻き乱すばかりである。「ロッドマン」は、同じ掃海艇群の一艦である「エモンズ」と並んで、ゆるゆると警戒に当たっていた。

艦内は、総員配置に就いた警戒態勢だ。レーダー・スクリーンには、何も映像は出ていない。突如、厚い雲を貫いて飛行機三機が躍り出たと思うと、瞬く間に頭上に殺到、協同攻撃に移った。一機、大音響とともに上甲板左に撃突、粉砕した機体と飛散したガソリンで、艦橋も、煙突も、瞬時に巨大な火焔の毒に包まれる。数秒、右舷外至近に一機突入。見上げるほどの水柱が、艦全体に落ちかかる。

「ロッドマン」の艦首が、海と空とに、ぱっくりと口を開けた。艦と乗組員の生きるための闘いはじまった。
——火を艦橋に燃え移らせてはならない。艦橋の火場と煙をもさくさくしなければならぬ



いち時はアレコレと
迷ったもの
養毛料はやっぱり
ヨウモトニョウ
に決めた。

真愛用者の中からよく決まされる
真愛の御体は、ヨウモトニョウ
の単体効果から成る養毛料の香
りと、爽快感が其人の生活環境に
スッカリ溶け込んで、離れ難いもの
となつて居ります。
夏の頭皮衛生には、汗臭い頭臭を
清浄化し、フケ痒み、髪毛を忘れ
て、頭皮下のヘアラインの絡み止め
に役立つヨウモトニョウの効果を
毛髪に深い影響を與えています。

一五〇円・ニモウ・ニモウ・ニョウ
東京千代田区本所
「養毛に決める健康剤」
東京千代田区本所
ヨウモトニョウ本舗

い「ロッドマン」は、艦尾を風上に向けて後
進を開始する。ハタと、舵が動かなくなる。
艦が沈下する。上甲板の水が洗う。
上部の重畳物を海中に投棄する。鍋を捨て
る。艦底に流れこむ水を、懸命にポンプでか
い出す。火が迫る。その火先を背に、兵たち
は眼の色を変えて危険な弾薬包を担ぎ出し、
海に捨てる。
重いものを捨てろ。艦を軽くしろ。火を消
せ。水を防げ！
——午後四時、八点鐘が鳴るころまでに
は、火災もようやく峠を越えた。が、また日
本人たちが来た。いたるところから襲ってく
る。

だ。大空を斜めに横って、一団の火に包まれ
た飛行機が、雲を縫い、流星のように流れ
る。死所を求める青年たちの艦橋は、こうし
て遠せられる。
そのあたりで上空直衛の米機に射ち墜され
た日本人たちは、たいてい、「ロッドマン」
めがけて体当りしてきた。
一機のカミカゼは、左舷水線付近にある舷
窓に激突して、危うく船をまっ二つにすると
ころだった。艦体に入った砲撃が、ほとんど
骨髄にまで達していた。
五インチ砲の弾薬包四発が誘爆した。前部
弾薬庫にあった弾薬包は、大部分が転倒し、
転がり出した。が、弾火薬庫の爆発は起らな
かった。奇蹟——というよりなかった。

もう一機のカミカゼは、艦長室にとびこん
だ。火焔は上部構造物をひとためにし、操
所を後部に移さねばならなくなる。
乗組員の一部は、艦外に弾きとばされ、一
部は海中にとびこんだ。救難隊として五十八
名を艦上に残し、あとまだ生きている者は、
救助艇に移される。
夕闇が迫るころ、火災は消え、艦が動きは
じめた。ようやく六ノットを出せるようにな
り、翌四月七日三時二十五分、目も当てられ
ぬほど痛めつけられながら、それでも慶良間
列島にたどりついた。焼けただれ、押し潰さ
れた戦死者の遺体を、艦上にのせたまま。
「ロッドマン」は、こうして生きのびた。守
所を守りぬくために闘った一艦であった。

「大和」沈没

しかし、もう一隻の「エモンズ」は「ロッドマン」ほど「幸運」ではなかった。「エモンズ」は、その日の「不運」を引き当てた一隻だった。

スコアカードは、魔であった。「エモンズ」が浸水沈没したほか、駆逐艦「ブッシュ」と「ホルホーン」が沈んだ。

——その日午前三時、「ブッシュ」は、沖縄北方の哨区で、カミカゼを発見した。ただ一隻だった。

水面すれすれを、カミカゼが突っこんでくる。対空砲火は全力をあげて迎え撃つ。と、みる間に、飛行機のとこが千切れて飛ぶ。それでもカミカゼは真一文字に進んだ。

瞬間、耳を聳する轟音とともに、左舷、二番煙突間に火柱が立つ。同時に、下甲板の前部機庫室で、カミカゼが抱いてきた魚雷が爆発する。その力で、機庫室にあった重さ四トンもある機械が空中高く噴きとばされ、マストの上のレーダー・アンテナを破壊し、艦橋の右端に落下する。爆発したカミカゼの機体が、徐々に浮上り甲板一面に散

散し、いっせいに火を噴いた。

応急隊員がとんで来て、火を消し、浸水を食い止め、浮力を保つ。駆逐艦「ホルホーン」が、近くの哨区から救援に駆けつける。

そのとき、午後五時、十機から十五機の新たなカミカゼが突撃してきた。

たちまち「ホルホーン」がやられる。二十五秒遅れて、「ブッシュ」に二回目の直撃。この第二のカミカゼは、「ブッシュ」をほとんどまっ二つにしてしまった。その上に、第三のカミカゼが激突。万事休す。「ブッシュ」は大爆発を起し、六時半、沈んだ。

一方、「ホルホーン」に襲いかかったカミカゼは、狂気のように射ち上げる対空砲火で、五機墜された。が、その弾幕をかい潜った四機が、ほとんど同時に、四方から突入した。

一機は上部に命中、上部構造物を火の海とする。もう一機は艦首部に命中し、前甲板に大穴をあける。あと三機か四機は、水面を削うように突撃して舷側に命中、艦いっばいに火と水と、燃え上るガソリンと破片とを撒き散らす。

歪のいたるところで、火焰と、奔入する水の

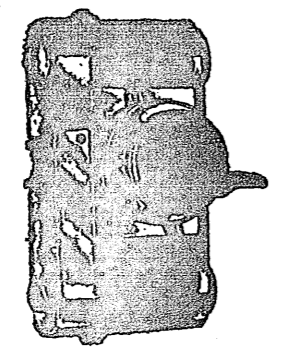
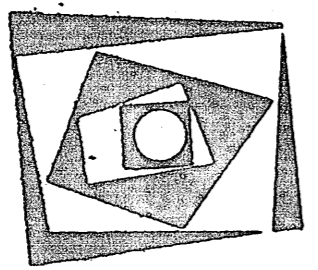
のために、兵が死んだ。

艦長は、全速力で後進をかけ、艦尾を風に立てて、火焰が艦橋にかぶってこないように努める。応急員が駆け廻り、火を消し、水を防ぐ。それでも艦は次第に沈下する。砲も、鎮も、魚雷も、そのほか上部にある重電物を、ことごとく投げ捨てる。

日没がきた。さすがの火勢も衰えてきた。兵たちの奮闘で、前部弾薬庫の爆発は、かろうじて食い止められた。が、「ホルホーン」は、それくらいではどうにもならないほどの深傷を負っていた。その後、五時間は浮いていた。午後十一時、さざ波は、真っ赤に焼けた上甲板を洗い、艦は、大きく左に傾く。そして、三十五名の遺体を抱いたまま、水面から姿を消した。

そのほかに、一隻の戦車揚陸船(LST)は、船首から船尾まで、一物も残さず燃えつくした。弾薬運搬船「ローガン・ウィグワム」は、零戦二機に体当たりされて、おそろしい仕舞花火に点火したように炎上、燃えながら沈んだ。弾薬運搬船がもう一隻沈み、九隻の護衛艦タイプの船が大破したが、うち一隻は、板材を縛って浮かせたものに爆撃数を

比類を
解像力
リケン F1.9レンズ
(55E) 6群6枚構造 ガラスタイプ



設計のリケンF1.9レンズは
今迄の大口径レンズに見られな
かった超々高解像力を持ち
超々高解像力の威力を世界
に示した画期的な花型です。

519

41 コーシャ NXL付
カメラ ¥22,000
ケース ¥1,500
総計 ¥23,500

富士写真工業株式会社
東京 丸の内 本町二丁目
電話 丸の内 七五三

史上最大の画解力

船びつめ、それを敵人の日本特攻隊が放いで
押して来て、舷側につけ、人もろとも爆
発、そのために大破したものであった。
しかし、レーダー・ビケット・ラインにて
きた艦隊は、認められた。爆撃作業は、依然
として続けられた。一方、日本軍の後援は、
甚大だった。およそ四百機にのぼる日本機が
四月六日から七日早朝にかけて、失われた。
このうち、ビケット・ラインで食い止めたも
のは三百機。これにたいするアメリカ機の損
失はわずかに二機に過ぎなかった。
そして、この四月七日、世界最大の戦艦で
あり、日本海軍最後の誇りである十八インチ
砲の巨艦「大和」が突如として襲った震動
と、空中に激しく高砲をあとに、沈没した。

「大和」は、日本の領土から侵襲者を追い私
おうとして、南洋艦一隊、駆逐艦八隻をした
がえ、沖縄に向け、勇敢な戦士ではあるが、絶
望的な任務を果たすために出撃したのだ。だ
が、目的地にいたらぬ遠くで、第五十八
機動部隊の飛行機に見えられ、仕止められ
てしまった。
陸では、島の北部を保持した海兵隊は、大
した抵抗にも途わず、掃蕩を続けたが、南部
に迫った陸軍の方は、日本軍のいわゆる鉄壁
の陣に、真正面からぶつかつた。
ルーズヴェルト死す

大和して来襲した。
十一日、沖縄地区は、完膚ないまでに蹂躪
される。沖縄の東百マイルにある第五十八機
動部隊に、日本軍は攻撃を集中する。
太平洋戦争で、歴戦部隊の第一である「エ
ンタープライズ」は、ガミカセ二機が至近に落
ちて、「相当の損害」を受ける。「エセック
ス」も損害を受け、駆逐艦や駆逐艦も突
入される。
翌十二日は、ルーズヴェルト逝去の日だ
が、この日も大空襲を受けた。アメリカでは、
国民ひとしく悲しみに包まれているのに、沖
縄では、ニュースは個人壕から飛行機へ、
砲塔へと伝がって、悲しむ余裕もなく、祈
りを捧げる時間もない。この日、多くのアメ

79~1

リカ人たちが大統領といっしょに死んだ。

暗れ上った午後、日本艦百七十五機あまりが、十七夜にわかれて沖繩に殺到した。強力な上空直衝機と、史上最強力艦隊から射ち上げる弾幕に迎撃されたが、それでもカミカゼは、おそろべき犠牲者を道伴れにした。攻撃の矢面に立たされたのは、ビケット・ラインだった。

午後一時五十八分、駆逐艦「カッシン・ヤング」は、四機の九九式艦上爆撃機を撃墜したが、一機、前部機械室に撃突する。戦死一名、戦傷四名。

午後二時、第十二哨区にあった掃海駆逐艦「ジュファーズ」は、危うく突入を仕損じたカミカゼの二機が至近の海中に突入したため、そのあたりを食って、火災を生じる。

午後二時、新造の駆逐艦「マナート・L・エーブル」は、竜骨を折られて沈没する。戦死六名、負傷三十四名、行方不明七十四名。

——この駆逐艦を沈めたのは、カミカゼ一機と、この日、はじめて出現した「桜花」特攻機だった。

まず、カミカゼ一機が、猛烈な弾幕を突破して、左舷側に衝突する。爆発で、後部機械

室は瞬時に潰滅、人や機械を、はね上げる。その一分後、「桜花」特攻機一機が左舷側に突入し、前部缶室を噴き上げる。

こういう大爆発を二回も受けて、どうして駆逐艦の船体が堪えられよう。新造艦とはいながら、たちまち竜骨が折れ、「桜花」の突入後三分で艦は沈んだ。

同時に、戦艦「テネシー」にも命中、「アイダホ」のバルジに浸水し、「ニュー・メキシコ」は、海岸砲からの一弾を食って、大穴をあけられる。

このほかにも、護衛駆逐艦「ホワイトハースト」がやられ、駆逐艦「スタンレー」は「桜花」に突入され、護衛駆逐艦「リドル」、「ロール」がやられ、駆逐艦「バーディ」がやられる。

そのうちに、まだビクともしない首里防禦線の日本軍陣地と対峙するアメリカ軍には、日本の宣伝ビラがばら撒かれた。

「ルーズヴェルト大統領の逝去にたいし、深く哀悼の意を表します。「アメリカの艦隊」が大統領の死とともに、今やこの沖繩において起ろうとしています。

米空母の七十機、艦隊の七十機は沈没す

たは大破し、このため死傷十五万に及んでいきます。あなた方は、これを監視しなければなりません。……五百隻にのぼる「米大海底艦隊」が、この小さな島のまわりにできました。

あなた方は、切断されたトカゲの尻尾が、さかんに跳ね廻っているのを見たことがあるでしょう。今のあなた方は、このトカゲの尻尾と似ています。血の一滴でさえ、あなた方の心臓からは送られて来ないのです……」

太平洋は一方交通ではない

四月十六日も、悪日だった。

空母「イントレピッド」が撃突され、駆逐艦一隻が沈没、駆逐艦多数が損傷を受ける。

リーダー・ビケット・ラインの艦隊地域、第一、第二、第三、第十四哨区には、それぞれ二機ずつの常時上空直衝機を配し、各哨区には「対空火力を増大するため、駆逐艦二隻による二重警戒を行う」こととなった。

それでもスプルアンズ長官は、ニンソップ太平洋方面艦隊司令長官に宛てて、こう書きます。

「敵の輸送船が艦隊を襲撃し、我々の艦隊を



ひなぎく印

Daisy

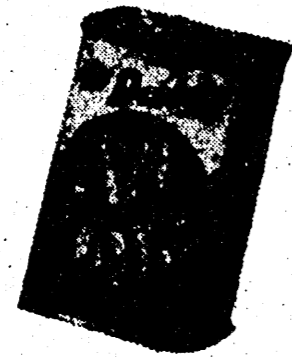
涼味を呼ぶ
爽やかな
香り!



スイート
コーン

オールスタイル
フリーズスタイル

アスパラガス



有限会社 大塚食品工業
有限会社 日本アスパラガス株式会社

史上最大の海空死闘

らに艦船の喪失と損傷の激増により、今後の
隊の攻撃を阻止するため、百方手段を尽さざ
るを得ない状況である。ついでに、第二十空
軍を含む全可動機をもって、九州および台湾
にある飛行場にたいし、全力攻撃を実施され
ない。

この要請にもとづいて、早速攻撃が実施さ
れた。日本軍飛行場は、爆弾とロケットで、
被害もなく焼き掃われ、蹂躪された。が、
天皇の特別攻撃隊は、十分に分散され、慎重
にカモフラージュしてある。特攻攻撃は、依
然として続けられた。

横濱艦隊で、慶良間列島の鎮地は身動きも
できない。太平洋を横断する航路という航路
には、足をひきずっていく横濱艦の航路があ

る。日本本土にたいする第五十八機動部隊の
準備攻撃のとき攻撃され、艦全体が火になっ
た空母「フランクリン」のときは、ニュー
ヨークで修理を受けるため、パナマ運河を通
ったほどだ。

それでも艦隊は、戦場を死守しようとして
やってきた。太平洋は、一方交通ではない。
損傷艦船は、アメリカに戻る。が、それを補
充する人と艦は、絶え間なく西へ、戦場へと
流れ動く。中部太平洋から、北部太平洋か
ら、大西洋から、駆逐隊が、叩き潰されたビ
ケット・ラインの哨区を崩すため、沖
縄進出を命ぜられる。

短期決戦によって勝利を獲得するのぞみは
もう今になると、陸上海上ともども、雲散霧

消してしまった。

首尾防護隊は、依然、健在だ。
「配置に負け」の合同は、日ごと、夜ごとに
鳴り響く。

血と火焔による長い試練を受けるため、艦
隊は腰を据える。その月の終りまでに、アメ
リカの艦船二十隻が沈没、うち十四隻はカミ
カゼによる。また百五十七隻が損傷をうけ、
うち九十隻が、カミカゼのためであった。

第五十八機動部隊はあちち

四月が終っても、菊水特攻隊は、ひるま
ない。地獄図を描き出す激戦が、このあと、
ほとんど二カ月もつづく。けれども、あんな
に物凄い艦船の喪失と損害は、もう二度と起

30~1

らなかった。五月、六月になると、沖繩では、艦隊と鋼鉄との間の死闘が次第に少なくなる一方、人間の意志と忍耐力にたいする険しい試煉が、ますます強さを増していく。

いつ果てるかもしれぬ警戒が続く。悪天候によって、ほんの少しの間、中断に恵まれるまでの、ぶっ続け五十日間以上というものと、毎日、毎晩、空襲がある。ぐっすり眠りたいと、一人残らずが渴望し、夢みる。敵機を照準していると、頭がガクリとする。神経はすりへらされ、気がいらいらする。艦長は目を真赤にし、頬がこげ、やつれた。

「マジック」というのは、敵の暗号を解読し、敵の意図を窺察するアメリカ海軍の方式の謂いだが、この「マジック」で、艦隊は、日本機の大規模攻撃が予知できた。あるときには、敵の夜間攻撃のマル一日前に、拡声器で艦内全般に警報されたこともある。だが、このやり方は、やめねばならぬ。待つ間のそけ立つた緊張、その待っているものの恐ろしさ。過去の経験から、その恐ろしさが鮮やかに心に蘇ると、多くはヒステリー症状を呈し、発狂状態になり、身心耗弱につき落さる。

ただ一つの救いは、アメリカ人の特性であるセンス・オヴ・ヒューモアだった。これが一部の人たちを、恐怖のふちに沈み切るのを食いとめた。哨区についている一隻の小さな砲艇で、絶えず死神と隣り合わせに坐らされている乗組員の一人が、矢印を艦の上に描き、大きな文字を書いたものだ。

『日本の搭乗員に告ぐ。第五十八機動部隊はあちら』

陸では、首里防禦線にむかい、血みどろの進撃が、じりじりと、一寸刻みにつづく。だが、日本軍の防禦線は、依然、鉄壁を誇る。しかも五月二十二日付の第三水陸両用軍団司令官の報告では、太平洋戦線ではじめて経験したほどの苛烈極まる砲撃を受けている、と述べた。

五日末になると、沖繩は梅雨期に入る。野原は一面の泥沼と化し、戦車は泥潭で動けない。泥が、すべてに君臨し、弾薬も燃料も、水陸両用戦車で前線に送るありさまである。戦線の後方では、海兵隊員たちが、雨漏りのするテントの中にぎっしり詰め合いながら、缶入りのビールをあげ、有名なマックアースの標旗をどなる。

『さても致ある将軍たちで一番お偉いダグラスさん、すてきな文を書きなさい。いつも命令出すときは、ワシ鼻の下からほき捨てて、大股開いてお歩きだ』

海でも、陸と同じような二十四時間砲撃がつづく。日本軍の潜水艦、豆潜本艦、特攻艇が、カミカゼ機と呼応して、艦隊を悩ませる。敵潜水艦発見の警報がたたくさん出る。中には、誤認もある。ソナト（水中探信機）が魚群か渦流かを測ったのだ。いわゆる「琉球の海底幽霊」がこれである。一つの特攻艇攻撃にも、日本軍は、長さ三十三フィート、乾舷の高い発動機船から、機で滑る丸木舟にいたるあらゆる種類の船を使ってきた。

組織的抵抗終る

次に、日本軍は、新手段の奇策を考えた。まず日本機が、アメリカ軍の読谷、嘉手納両飛行場を爆撃する。つづいて強行着陸をするのだ。義勇空挺隊の爆撃機五機がこの機法を実施したが、四機は飛行場進入前に撃墜された。五機目が読谷飛行場に胴体着陸、中か

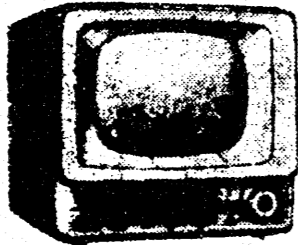
11x3.5

(特許及び実用新案申請中)



遂に完成した 世界で最初の 超精細型ワイドスピーカークの大きさです

このテレビには……
あらゆる技術的困難を克服して、
本邦の音響技術がその製作に
成功した世界最初の11x3.5寸の超
精細型ワイドスピーカークが搭載さ
れました。最高音から最低音まで
少しのヒズミもない素晴らしいハ
イ・ファイブを完全に再生します。



新発売

14吋ダイナミックビジョン
超精細型ワイドスピーカーク方式MT-1000
最新・最新機能

現金価格 69,500円

一年間保証品保証付です。お買の方はア
フターサービスの花金なぞも本邦特約店、百
貨店にて



八電電機株式会社

史上最大の空襲死闘

ら十名か十一名の日本兵が躍り出して、近く
に置かれた飛行機を射ちまくる。こうして、
全員が飛行場で犠牲するまでに、米機七機を
破壊し、二十六機を破壊させ、ガソリン七万
ガロンに火をつけ、沖縄上陸当初ならともか
く、今となつては(五月二十四日)思いもか
けぬ地獄を現出させた。

五月二十七日、カミカゼは、ふたたび大挙
来襲。百十五機が撃墜される。このとき、駆
逐艦「ドレクスラー」は、海底に眠る僚艦の
あとを追ひ、「ゲイエティ」、「アンソニー」
と「ブレイン」、「サンドーヴァル」と「フ
オレスト」、「ギリガン」と「ロイ」、「メ
リー・リヴァモア」と「ブラウン・ウィクト
リー」といった弄情的な名をもつ艦艇が損傷

した。

五月二十七日真夜中、アメリカはじめての
大陸海空戦を指揮してきたスプルアンズ、ミ
ッチャー兩提督が、野人、ワイルド・ブル
ハルセーと、いつも噛みタバコを噛まぬシド
ニー・ジョン・マッケインと交替する。

五月末までに、日本陸軍第三十二軍の精華
五万名が、防禦陣地の瓦礫と弾痕の間で戦死
し、牛島満中將は、残存部隊を後退させ、南
部地区の最後の抗拒線に立てこもり、背水の
陣を布く。

ついに星条旗が、日本軍陣地の拠点、首里
城に翻った。この城は、古代、もう名も忘れ
られた国王の築造したもので、城壁の厚さ二
十フィートにも及んでいるが、今はただ瓦礫

の山だ。その山の中から、海兵隊員が、古い
鐘を二つ振り出した。砲撃で、傷が付き、悶
んではいるが、漢字でこういう意味の銘文が
彫りつけてあった。

「……この鐘は、どう響くだろうか。遠く、
広く、雷鳴のとどろくように鳴りわたるだろ
うが、その音は澄み切っているだろうか。この
鐘の音を聞けば、邪悪な者も救われるだろ
う。」

砲撃のあけた大穴に立って見渡すと、その
あたり、人が住んでいたところらしく、終生
忘れられない人体の腐臭が、どつと鼻を襲っ
てきた。

しかし、戦いはまだ終わっていない。
第三艦隊の戦時日誌には、間もなく「レ

2121

グー・ビケットラインに配備された艦船が、驚くべき被害を受けた。旨、書きこまれる。

沖繩では、第三十二軍の生存者たちが、極度の疲労と欠乏にさいなまれながらも、糸満から富名腰にいたる丘陵と断崖の、岩ばかりの線に沿って踏み止まる。

六月三日、七十五機のコミカセが、十八回にわたって来襲する。翌六月四日には執拗極まる日本軍に、大自然までが加勢する。

台風だ。巨濤が、侵攻部隊艦船を、急激に翻弄される木片のように突き上げる。巡洋艦「ビッツバーグ」の艦首をもぎとり、空母「ホーネット」をはじめ、多数の艦船を損傷させる。

六月五日、戦艦「ミシシッピ」と重巡「ルイスヴィル」がコミカセに突入される。

六月六日、北方からの大空襲。敵は死物狂いだ。

それでも、勝利は見えている。ただし、その勝利を、もう見ることができなくなった人たちが、大勢あり、ふえていくだけだ。

陸では、両軍の最高指揮官が、戦死者の列に入った。サイモン・ボリヴァー・バックナー陸軍中将

は、有名な軍人である。頑丈な体格をもち、名門の出で、第十軍司令官だったが、六月十日、日本軍の一弾が海兵隊の観測所の上で炸裂、飛散した珊瑚礁の一片が、かれの胸を貫いた。

一方、六月二十一日、日本陸軍第三十二軍司令官牛島中将と参謀長長勇中将は、そのあと八九高地と名付けられた丘の洞窟で、敵かに切腹して果てた。

後日、捕獲したある日本兵の日記に、そのときの模様が、こう書いてある。

「軍司令官のコックは、真夜中少し前に、特別の御馳走を盛った食事を用意した。食事が終ると、軍司令官と参謀長は、幕僚といっしょに、首里から持ってきたスコッチ・ウイスキーをみんなあけ、いく度もいく度も乾杯し、別れを惜しんだ。……」

ああ！ 二将星、摩文仁にかける月とともに墜つ……」

その夜、沖繩における組織的抵抗が終ったことが、全世界に知らされた。

次の朝、軍楽隊がアメリカ国歌を奏するうちに、旗手が、この血ぬられた旗に、アメリカの国旗を掲揚した。「一陣の微風、旗をは

らい、紺碧の空に、星条旗がいっぱいに翻った」。

日本機の損害七千 八百三十機

沖繩戦は、戦争の酷さの極致だ。それ以外、どうこれを説明しようもない。その規模において、その範囲の広さにおいて、その激烈さにおいて、かの英本土航空決戦すら顔色なからしめる。飛行機が飛行機にたいし、艦が飛行機にたいし、こんなにも残酷な死闘をしたことは、それまでかつてなかったし、今後もおそらくあるまい。またそんな短い間に、そんな多数の艦船を海軍が喪ったことも、一度もなかった。さらにまた、そんな狭い戦場で、そんな短期間に、あれほど多くのアメリカ兵の血を流した陸上戦も、なかった。過去のあらゆる戦闘の中から、どこでもい、どの三カ月をとってみても、沖繩戦のように敵に損害を大きく与えた戦闘はない。

むろん、それより大きな陸上戦闘はある。それより長期にわたる航空戦もある。しかし沖繩戦は、総合戦である。海と陸の、上でも、下でも、上空でも、ぶっ続けの戦闘がつ

靴は...

此のマーク



スタンダード靴

スタンダード靴は全国一流靴
店デパートでお求め下さい。
(カタログ希望者は直接本社迄)

スタンダード靴株式会社
本社・東京都足立区野町
支社・大阪・福岡

史上最大の海空死闘

づいたのだ。
戦間にたいする統計をみると、この「最終戦」が、どんなに大きな損失をもたらしたかが明らかになる。
日本軍は、十一万名にのぼる戦死者のほか、戦艦「大和」以下十六隻の艦艇を失った。慶良間列島から作戦した哨戒機のために、数万トンの商船が沈み、砲二百八十七門が海没した。アメリカ軍は、戦死一万二千二百八十二名のうち、五千名は海軍で、三軍のうち最も多かった。
米艦船の被害は、三十六隻沈没、三百六十八隻損傷(台風、衝突、坐礁によるものを含む)。このうち沈没した二十六隻と、損傷した百六十四隻は、カミカゼによるもので、従

来方式の雷撃による空襲では、沈没二隻、損傷六十一隻に止まった。
だが、三カ月間で失われた日本機は、七千八百三十機に達した。そのうち海軍と海兵隊の飛行機が三千四十七機を墜し、四百九機は艦隊の対空砲火で墜した。また二千六百五十五機は作戦中の事故で失われ、数百機は地上撃破され、五百五十八機は陸軍のB29により、数百機は体当りによって壊された。
アメリカの被害は、日本軍の飛行場を攻撃した大型陸軍爆撃機との戦闘と、空襲で失ったものの四百五十八機に過ぎず、残りは作戦中の事故が原因だった。
アメリカで沈没したものには、駆逐艦より大型のものは一隻もない。損傷を受けた艦船

のうち、護衛空母一隻を除いて、他は補給のところが、修理ができ、しかも迅速にできた。
日本軍は、アメリカの空母、戦艦、護衛艦、輸送艦は、一隻も沈めることができなかった。
「ここに来り、艇子でも動かさず、踏み止まり、沖縄攻めをなすとけさせた艦艇は、それが報いられたより、遙かに遙かに大きな奇功をしたのである。これら小艦艇の勇敢なる乗組員たちに与えられた賞詞は、...「不逞の決意をもって死すとも守所を離れざりし大勇、まことに顕著なり」という簡単なものであったが、この賞詞は、たんに小艦艇乗組員のみならず、アメリカ開国以来最大の戦闘に参加し、敵と戦い、これに耐えた沖縄の将士、す

で、鬼船に入っている人も生存者もともども、すべてに等しく身えられるべきものである。

ただし、艦隊、機動隊、掃海艇隊など、レーダー・ビケット・ラインに就いた小艦艇には、特別の栄誉が与えられねばならぬ。かれらは、冒険に絶する死と破壊の劫火を浴びた。光榮の死所を求めて颯風のように突撃してくる日本人たち、カミカゼと特攻隊と決死隊と、それと東支那海を征服しようとするアメリカの意志との間に、薄い、いまにも突破されそうなる手薄さながら、血染めの一線を画して立ちふさがり、最後までその線を守りぬいたものこそ、じつにかれらであったのである。

筆者あとがき

「生きようとする者と、死のうとする者」との間に戦われた未曾有の沖繩戦は、古来の戦争の結果が示すように、生きようとする方が勝つて、戦いは終わった。が、そのための死の犠牲は、おびただしいものがあつた。

第二次大戦米陸軍作戦記録(トレイヴン・タイトル)によると、日本軍は十回大規模攻

撃を行い、四月六日から六月二十二日までの間に、九州の飛行場から、一、四六五機にのぼるカミカゼを飛び立たせた。このほかに、一八五機に達するカミカゼが九州から、二五〇機が台湾から出た記録があり、さらに、おそらくカミカゼの犠牲に倍する従来どおりの攻撃のための出撃があつたようだが、この方の数は、わかつていない。この敵飛行場群にたいしては、B29をはじめ、各種の飛行機が反覆攻撃を加えた。

米海軍は、日本の攻撃が、一部台湾から来ていると主張して譲らなかつた。第五空軍の方では、九州一本説を固持した。海軍は、カミカゼ特攻基地としての台湾の価値を過大に評価していたことは明らかだが、第五空軍の方は、過小評価に墮していた。

繰り返し写真偵察は実施されたけれども、台湾では日本軍が徹底的にカモフラージュし、分散していたので、すっかりだまされた。つまり、飛行機を分解していたり、そうでなければ、十分にカモフラージュして、村落や市街の中に疎散させていたのだ。……こうして、台湾には敵機は八九機しかいないと情報士官が見積っていたときには、実は七〇〇機

新発売

グラスで飲む酒ノ

ソフト シンセイ

伏見 山本家醸



あまりを日本軍がもつていたのだ。これだけの大出血をして勝った沖繩戦で、日本軍は完全に背骨を折られてしまった。このため、長期間をかけて計画された日本本土侵攻は不要になった。日本が降伏したときには、沖繩はまだ、連合軍航空基地建設が緒についたばかりのところだった。ただし、それでも沖繩は、戦争終末期、日本周辺の封鎖を強化するには、重要な役割を果たした。沖繩を基地とする米陸軍航空部隊が九州に攻撃した回数、実に六、四三五に及んだのである。(吉田俊雄氏)

圓想錄

神立道

台湾の巻



私の船を特攻の突撃の預言をうけ肉体的困憊と
神経衰弱状態に米國艦隊は恐らく方策の選択と
実行に迷ひに迷つた事だろう
その苦境は事として

ミッドウェー艦隊は

四月十五日 十五日 五月十三日 二十四日

マニラ 横部部隊は

五月十一日 八日

特攻隊は九州基地に九州基地を大々襲撃した
この苦境は事として分らなりのヨタク
しものも 沖波週知にのみつてゐる米艦隊
は天候がよかつたしのも 依りとして米艦隊

退却論。米軍内に相違の意があるが、其の
るに事は終に其後ニナシと云ふこと
其の日は此の如く

四月十五日

敵海上勢力の強さをいふこと一島の奪取の
めり力なり

(ニヤは首里よりその島の奪取に
感慨ありと云ふこと思ふ)

五月三日情報

佐々木部長は艦隊の擧言大に
進出せしむるに伊波作兵衛を断念す
を具申しトニヤは十艦隊を以て擧げ

すんまを命ず

ニミツは未だ可艦隊の作兵衛投入を擧言す

五月七日情報(各特情)

敵は艦隊のよとニ週日債のすこと悲鳴の
声あり

五月三日七日の情報に倣くまがも情報に
真偽は分ぬことその間の状況の一部の
分る様な気がする

聯合艦隊は十九日より先、即ち四月十日
總攻撃の命令を下しこゝる
即ち

一 諸情報と結合するに敵は部隊の北ありと
我々は南に七分三分の割合に在り
二 聯合艦隊は此の機に乗じ指揮下一部の
航空兵力を投入し追撃せよと欲し
天号作戦を遂行せんとす

この間、命令文は余程練りに練つたものと
考へらる。後者我々評論家は何と云ふか
のうらむいけぬとぞ

敵は部隊の北ありと断じ

一 七の航空兵力を投入せんと欲し
この問題は五のうらむある聯合艦隊の
一七の航空兵力を投入せんと欲し

傑作の決意をこの時に対し日軍は後仰部を
陸軍航空部隊の協力の点にある。

米軍のユタ〜心理に対し某期は永遠に
改訂を続けなければ意義は極めて薄れ
します。私はこの頃の敵軍勢や軍政當局

の考へを知らぬ由もない。不慮な予こ
断平下なる考へがなかつた事又は言える
様がある。

そして、本工次隊に航空機を温存すると
称して航空兵力を三八式歩兵機乃至

野山砲機に驚くべき技術思想に墜した
事も事實である。

伊藤政徳の筆法を以てすれば伊藤に於りて

日本は勝利のすべに自ら勝利を抛擲した
とも言えるたうう。
我々の十甲八九近は ^{右義}司令部は司令部の
我々のにはある。

私は此の司令部は司令部と云ふ事については
考へてある。 田

敵艦隊の伊波通に敵艦隊に命のけの
攻撃をかけた。作戦目的は
高なる敵軍の決定された
し、實際は現実の状況に支取された攻撃
意欲の交代する。

中絶の如く軍の業を殺しこめたものはどうもあつた
かとは事である。

あるは彼方の決定した作戦目的の
地上軍の全滅と共に自軍の解消した伊波
艦隊の直接目的は地上軍の救援はなかつた
筈である。それ自体が可笑しい。

且又伊波軍は漸減しつつも
艦隊の戦術に意欲的に協力して居るならば
艦隊の攻撃は止めらるゝかたは事
と思ふ。その辺に高なる目的の
形にない。死るに理があるもあつて
それの支援とあつて協力精神の
あつたと云ふものはあるものか。

山本五十六之仰の標、身「一般」
知つてゐる。高級指揮官、中流軍、一般
「一般」
「一般」

